【果樹】木頭ゆず振興協議会の取組　【徳島県那賀町】

木頭ゆずに着目したポイント

“木頭ゆず”は、那賀町内で古くから栽培されていた在来のゆずから選抜・増殖され生産されたゆずの総称。標高が高く、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気象条件による、鮮やかな色合いや香り高い等の特徴に着目。

【地域の連携状況】
・木頭ゆずクラスター協議会の設立。
・協議会には11団体が参加し、ユズ加工品の開発や企業連携による新たな需要の開拓。
・イオンリテール（株）と連携した知名度アップイベントの開催。

取組産地の概要

- 生産地である那賀町は、北西部に四国山地、南部に海部山脈などを配しており、標高1,000m以上の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域。
- 昭和35年に旧木頭村助地区の有志6名が青果を販売したのが始まり。ゆずを品質改良や苗木の生産から出荷など、地場産業として育成。

特定農林水産物等登録証

生産条件

・夏は最高気温40℃、冬は最低気温零下10℃のように年間、昼夜の寒暖差が大きく、降水量が多い地域が適地。
・果実が大きく豊作性で、かいよう性コハン症の発生が少なく外観が美しいもので、厚い果皮と香気が高く果汁量が多い系統を選抜。

ブランド化

・昭和52年朝日農業賞を受賞
・平成26年からゆず青果をEUへ輸出。（29年度：2tを超える見込み）
・海外バイヤーから香りや品質、外観の良さから高評価。
・H29年９月に「木頭ゆず」が地理的表示（GI）として登録。

取組農家の拡大

・経営面積50aの兼業農家、ゆずと他品目との複合経営による専業農家で成り立つ産地。

【実績】
・那賀町は徳島県内トップ（売上げ332百万円）。
・出荷額：青果100万円/10a、果汁20～30万円/10a。
・“木頭ゆず”は、他産地に比べ青果率が51%と高く、青果の産地として生き残る道を選択。
・28年度に「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」チャレンジ賞を受賞。

【今後の展望】
・新植や改植による園地の若返り
・生産者の所得向上による、U・Iターン等の新たな担い手確保や雇用の創出。
・次世代への経営継承を円滑に進め、山間部における「もうかる農業」の成功モデルを育成。